

2023年9月27日(水)第四水曜祈祷会

ヨエル書2章1～17節

『主のあわれみに任せる悔い改め』

序論：ヨエル書の概論について \* 謎の多い書簡。ヨエルは南ユダで活躍した預言者

- ①「主の日は近い。」いなごの大群がもたらした国土の荒廃を、神の( )であると告げる。
- ②主に立ち返れと招きがなされ、全国民の涙ながらの叫びと( )が聞かれる(2:12-27)。
- ③「鎌を入れよ。刈り入れの機は熟した」終わりの日における諸国民への( )が述べられる。

本論：『主のあわれみに任せる悔い改め』

1. 「主の日は近い」(2章1～3節) \* 「主の日」とは、主の支配が及ぶ日のこと。

- ①「シオンで角笛を吹き鳴らし…ときの声をあげよ。」とは何を意味していますか。  
→
- ②「数が多く、力の強い民」とは何を表していますか。  
→
- ③いなごの大群は何に譬えられていますか。  
→

2. 「いなごの侵入」(4～11節) \* 主の日は現実的に、切迫感をもって描写されている。

- ①いなごの大群はさらに何に譬えられていますか(4, 5節)。  
→
- ②いなごの大群はどのように進軍していきますか(7-9節)。  
→
- ③「主はご自分の軍隊の先頭に立って」とは何を意味していますか。  
→

3. 「悔い改めへの招き」(12～17節) \* 「しかし、今でも」とはヨエル書の分岐点をなす言葉。

- ①「心のすべてをもって」「心を引き裂いて」とはどういうことですか。  
→
- ②神はなぜ「主に立ち返れ」と命じるのですか。  
→
- ③主に仕える祭司たちには何を命じていますか。

【適用と分かち合い】

- ①神はなぜこれほどまでに、「主の日は近い」と繰り返し告げられるのですか。
- ②神はなぜこれほどまでに、「主の日は偉大で…」と徹底的なさばきを行われるのですか。
- ③神はなぜ断食と涙と嘆きをもって、「わたしのもとに帰れ」と告げられるのですか。